秀軸

副評　木仙菴

[illegible]　風月
山水のさま清きを愛する邪　花溪
ちるを待の時を待て枝の魚　不所
[illegible]　春州
[illegible]　義洲
身深し　吉野の山の色　其堵
[illegible]を吹[illegible]　春曉
[illegible]天の川　撮拾本　却春
[illegible]の[illegible]月　二枉

川風の花やしく遊所の柳　二柾
ふる人ようつす鏡に笑顔の
跡月に花をかけ乃雪の那　仝
遊ぶうて人の行色ふ雪國　洗志
柱に菜乃湯ゑ清の打ゑ　綿郷
井の水に花をうる雪　照門
麦ふつく麦ちあるを雪ひろう　北九
菜畑に花よ蔭に柿の色　好月女
新つく面ちく抱て寝る雪　二柾
ふる面に月はく寝る花　照門
　　甚乙

時ふる水の音や廊の風　桐園
麦に芽もわれて白ひな麦の月　春竹
ふる雪にあり山ひ出れ雪　虎尺
多佐の門田ふる雪に花ふる園屋ふ　作カツ山
ふる雪や人ふ本ふる　梅居
清水ふつ本ふ月雪ふ　風月
新年ふ仲ふ雪ふ柳ふ年　二柾
花ふ年ふ西ふ遊ふ雪ふ　末秋
ふ行や雪ふ月ふ雪ふ手福　栄至
一面ふ雪ふ花の花　一葉
　　風月

[illegible] 十二八 自朱

追加

[illegible]百日松の[illegible]を備う郎　其山

文吉

[illegible]　風朗
[illegible]　岱年
[illegible]　梅室
[illegible]　南明
[illegible]　岱雲
[illegible]　將芝

秀
軸

副評　春花亭

[illegible]　青州
[illegible]　蓁樺
[illegible]　風月
[illegible]　イヨ夫ス　雪園
[illegible]　春湖
[illegible]　春樹
[illegible]　朱至
[illegible]　虎尺
[illegible]　郁春

[illegible]　蓼
今咲くは皆紫や　牡丹　梅花
板垣の溜り白しや　紙月　長垣
干てある三味の喫やきの色　西声
和枝や撥さえ出る花を捕　其聲
射綱干溜る色の路　花渓
教の名て呼れて居るや　二柾
彩波湾乃三味小弟　十二八　自来
一さあ　撥さえ出るの月　蓼
紅うの撥ふやさの撥　花渓

風あるさ花の新枝や　枯尾花　カフチ　自来
さされて無言や菊根ら　書面
さ野の三ツ川　虎尺
所ふけ二百日ぶりの戎　蓼
弟鞋要部より通て　新弦　十二八　自来
去湾や下ふ　弦て　二柾
むふ織部ふ　弦て　其聲
根を寸松ふ　ふやさ　花渓
解ふ人生て　ふれぬ弟　花綱
白と黒ふ　られぬや　東山

[illegible] 其鶯

追加

泡の〻川流れの藻や時雨の[illegible] 槐年

文吉

梅薫の苅絲さ〻あつ〻哉 護物

[illegible]の一節さ〻[illegible]の雪 有節

掃ちさ〻ら[illegible]なし百合の葉 宗古

山茶花よ踏つ〻[illegible]ふ小さ弓 雙鳥

川さ〻ぎんたの浮の附句哉 紀無

雪とけや拾つ〻[illegible]紙帷 卓池

秀 鳳翔齋

副評

柚

松の陰をのくても寺丈の山 百歳

大雪[illegible]く[illegible]の中 清九

附句や[illegible]梅[illegible]丹 可月

[illegible]の[illegible]新[illegible] 花朗

川[illegible]の[illegible]の[illegible] 十二八 自朱

[illegible]雪[illegible]九[illegible] 茶山

つ[illegible]よ[illegible]神[illegible]や小松山 風月

[illegible]の[illegible]稲[illegible] 花牛

梅[illegible]の松[illegible]十二枚 志義

二柱
蓋門
作主
一舟
花筏
其一
花筏
蘭和
照門
芳秀

幸煌
仝
桐園
茶立
一映
虎尺
青山
蘭和
其琴
春坡

[illegible]の一[illegible]を遠[illegible]一[illegible]の[illegible]　法志

追加

[illegible]　和声

文吉

[illegible]　海路

倒[illegible]　而伝

[illegible]の[illegible]　布国

自[illegible]　昇左

倒[illegible]　白路

樓樓の[illegible]　住峯

副評

秀　[illegible]や[illegible]入[illegible]樹の白し　秋古

雅　[illegible]　月沈

[illegible]　真雪

[illegible]　仲宇

[illegible]　樓若

[illegible]　梅石

[illegible]　一二

[illegible]　真聲

[illegible]　吳樓

八橋にて咲つゝ春さゝ波寄る
西方浄土うつるなり 桂の川
秋江 蘭月
駒ゝゝ 赤ゝゝ 沖鶴 二柾
ゝゝゝ 春の霞 枝古
自らも先にうつる色 蘭秀
うす紅乃ゝ 鄙ゝ 蘭六
世ゝ 老ゝ 海の日 他行色 一校
川のむら雨 鳴く秋の馬 新外
ゝの自や 温泉 結 二柾
飯汁や 等 刺 好 すき 鶯流

の雪出 ゝ ゝ ゝ ゝ の 芭蕉
杉 ゝ の ゝ 一 乃 雪 ゝ ゝ ゝ
餅 の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 源
金 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 松 の 雨
雪 ゝ ゝ 絵 ゝ 雨
月 ゝ ゝ 鶴 ゝ ゝ
修 餅 ゝ 修 ゝ 国 ゝ 山 ゝ
雪 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 芭蕉
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
一 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

秋江 楽 二柾
蘭月 風月 枝古
全 蘭秀
二柾 蘭六
三子 一校
春雪 新外
秀美 二柾
春琴 鶯流
可月
柳路

黄菊も寂しかりし竹の奥　花月

追加

落しさへつゝ暖かし山の霧　鶴年

文言

生て居る井戸の蛙や秋しぐれ　其山

みかけれく穀のこぼれ月影哉　其瑞

澄月や木かけ中乃一あかれ　素屋

若菜書きさらさら壱枚扇　枕立

まつ菜や悟りなしとて古きまゝ　梅通

耳の垢とるまでつるや秋の夜　比方

副評　笙聲菴

秀

雅

ちれても未た見へつゝ浅間秋　佐渡山　遊甫

田文　おもかげすく幽かに見ゆる菊の葉　花渓

梅ちるや鶯居るのころ手紙状　北濤

表所にも月のあかりて梅の秋　抜七　梅寛

身をもくすかの山居の川すゞし　イヨ内子　雲水

浅深や井戸の水も枝のところ　作カワ山　亀遊

次の間へ出てこもり小扇子哉　伯州　菜原

鶺鴒の居る浮るゝ水際かな　花調

田の水のなかしてあるや　枯草　セヒロセ　素雲

鴨里
爲例
万戸
二征
風月
雪恵
九蓋
潮浪
自来
素雲

二征
三子
白松
迎九
茅山
風月
蘆三
九蓋
雪恵
月花

[illegible]　有物

追加

叙英[illegible]高一舟の縁　鼇舟

文書

[illegible]　茂椎

[illegible]　駝岳

[illegible]　仏外

[illegible]　長泉

[illegible]　休憩

[illegible]　楊元

秀

性

副評　才[illegible]風菴

[illegible]　亀遊

[illegible]　叔外

[illegible]　野星

[illegible]　其蓼

[illegible]　九嘉

[illegible]　野岱

[illegible]　黒水

[illegible]　紀六

[illegible]　十八　青山

奥州北界の方にて花の初
めて雪中にあるを見て歌人
自然生ずる所の雪中の梅花
二三寸ばかりなるを折て
陸奥の国の名所の
二十年ばかり入る所の
所にて時雨に逢ひぬ雲の
夕立なるべし 日ノヒカリ
多賀城の橋の橋の
名を中 橋の橋 新しき事
行き新中 最の中 姫の原

於古
幸路
鬼長
陸奥
風月
二柱
丑川
夢三
狩矢
益麻

地の名を中 最の中
門を閉ひしき新
夕四月の中 生の
新の中 新の
いの中 又の中 橋の
の中 新の中
一本の中 の中 橋
緒の中 橋 生の
黄の中 新の中 の
黄の中 の中 の
黄の中 の中

風月
夢三
埴水
梅山
百丈
長笛
求侶
一峯
新井
風月

武蔵中野茶屋にて

追加

茶山　好月め

文吉

大庭中行くまま寒炉　一具

水落と板の屋戸中書の月　素亭

枯るゝ物と捉るゝ山桜　東月

ちらしと咲く岡中梅の花　英山

指折のきく人指の中の紙　七尺

茶屋中　漸くまれる沖の月　十節

柚

副評　梅梅菴

下茶屋もまこと二軒ある小松哉　宜涼

この中稲の揃うまでなる在所茶　相生

茶屋中時間もたつて在所茶　洗志

吟ぜれてまつぬもの淋しい萩の夢　呉天

蔭と角白ふくまれまつぬる　西鶴

枝の雨拝へもとゝ如屋ふるまつる　月雄

佛ともちつゝ形しまた雪　月斡

紙で結ぶ折ゝ着物ふる佛　松古

玉関へ馬とまつぬる川蔭　洗志

月の出く浅ひ夜ふけ　小堂　秋江
新上くこゝろもとめ　一謙
稽古こゝろも高く　響江
高かとて力ぬけ　梅山
外こゝろ高ぬ　看雲
水仙や掃除も知らぬ　拙年
日中にちらし　秋古
水の中こゝ第き　活慶
ふり捨て子の抱歩行　茶山
可笑さを返ふく　作ノ木井　孤柳

きれ雪や前も蒼うなる　伍尺
行きこゝ所の花こゝ　眠波
毋あ事と近こゝ　秋江
刺繍を振ふ　二征
浮こゝ　正徒
新川や影をのこる　月雄
茶子ぬうを上ふり　作ノ木井　選石
義ぬ事い雪こゝ　二征
ちらこゝ流ふく　花朴
英こゝ平行のの事　晒波

回文流しつゝ書籍を流しつゝ歌

追加

掃八中山に伊勢うち古く舊

文書

義貞の部屋を書しに萩北菜

義鶴中山と落ちる京の為

明ちうれ水を隔て中書狂

先ち事に水ちうち男松

日も尺に咲てもあし萩狭

あちう今ふ弱報のまた主に

有物

新尺

孚山

晋史

爲若

風阿

史東

十郎

秀

油

副評　春光舎

人の為ぬ名のうもちし花の山　一二

大勢や殿ちのあれ松ふ撥　二柾

ちしの枝新しき事変　風月

明ちを京中新ちを花先ち　白鳥

松ちを耳にちすむしち秋　松古

ちしと二日後ちうちれ雪　玉呂

舟ちしちうちを西ち鶴卯　於外

池ちうちを中鶴の下ちを　幸雄

水像ち聲の眠ちや青ちし　爲閑

立葉
蘭之
其翠
茶山
蘭之
其風
南岳
宏月
壯遊
蘭之

和立宗

四郎ヨリ頼ミ来レル事ハ
昨ノ夕ヨリ
花ハ
芝ハ
中ニ
つゝ
小松ハ
那
月
梅宗
俊翠
葉く
茶山
仲房
二柾
翠竹
加外
侃仏

作ハ未井

校川
景舊
茶山
蓮の
仲房
蓮の
仲房
川和
ハ
水
那の
月
月
碎
人
破
月

所〻大の形ちにして沈香の
素隆
追加
はこのかたちにして
文書
柄香炉
山風の景色あるに雲の中
辟塵
鑪居
茅代元年一月五日大藤八
塗馬
辻堂の芝生のこれうの
素摩
乙鳥中ましに日数の数ちう
波回
古寄中一寸五分にして事の義
別人

秀
牡

副評

雪舟筆

雑ふるとなく夜ふかきに
あんのふるにもたれ
不二とあり鉢波とあり雲の岸
四一枝和とあり和もあり
行を尋ふるに
あるべしに照樹あり山の内
水面のしら鷺
著とあり月和尚邪
蕃石英中 提へたるふる毎の猪

二柾
洞く
洗志
肥ノ国
俄名
北陽
俗分
扶古
徐来
里鶏

書かれ中こうろう墨の歌を
まち柳中 咲くあるし
鶯の花を 松くしの中の初雪
丘見ちを深くまとく咲き 阿波
不二ちと雪を行中えつ彩
第九百中ちちくかりあるも家付面
多雅中 芽年行く 野辺
四年水も深くまとく夕陽を
降ちを鶯ちとこかせちを帰り
徒一つ分ちて雅ちを春行

松古
歌外
幸雄
泡花
青山
馬一
友月
看雲
之芽
梅原

嘉永年 芽麦 芽中 梅の日
江山を 梅の貢 春比書
地ちちもつちて 鶯中を 所花
ちを付 月比雲
吹草ちく 梅ちを比 初中 春の梅 堂中酒
鬼灯の赤ちも 初中 初ちを
鶯 花の中 肥カラツ
三位中 鶯ちを 蓮ふ 深ち比 加減
徹の方へ方を経 雪山ちを中
山ちハ水を第ちく十 梅ちを

真柳
仝
吳天
玄和
黒水
洗志
甚雪
洗志
蘭月
相生

[illegible]　一葉

追加

陽和ハ和ラク長閑中　[illegible]　甚翠

文吉

[illegible]　七尺

[illegible]　悠々

七ツ屋　[illegible]　岳風

門の新乃閉ラレて[illegible]　幻芝

[illegible]　東月

[illegible]　仲秀

[illegible]　梅

副評　蓬青館

[illegible]　菓人

[illegible]　二柾

[illegible]　松花

[illegible]　琴川

[illegible]　蓁々

[illegible]　三子

[illegible]　仲秋

[illegible]　二柾

[illegible]　陽和

詠もつゐて侍るなり大根引　芦葦
さし出たる白き蓮の　茅屋
新緑と松一本残る年　丁月
なる根を抜くとあるは冬の月哉　九嘉
鳴きなるの新しく出る水蓼　梅山（橋レカ）
黄代や水きれしよりの波の波　馬一
百姓の住ふ面や秋陣　淡太
木の陰を別る清水　猛長
捨板の水流るゝ世に笠哉　支汀
子飛りに出るも新米乞　二柾

取出せるこゝやあるまゝ根哉　蓁舎
水流るとおもふ音の粉子　義別
りとなるこゝろの風ふく　梅巣
玉蜀黍や北窓の花　陽和
鍋の柄さゝやく流れ　梅居
北あるしよりなるこの粉雨　素阪
引てゝゝ沢山みる大根　玉山
木北引のまゝも七重の山路　二柾
夫雨やすの嶮しく森の蔦　蓁〻
松の実拾ふ立沢　玄美

去るまでに匂ひのあるやうに梅花　　茶至

追加

非情を感ずるやうに白き梅の部　　九成

文書

岩ひ形板の形やうに雲出やう　　去来　亮峻

新川岡崎にて志らくを居らう　　大和　鵬雲

りうきんよりの町の家藤やう引義　　アキ　雪頂

夫の松や藤やうにあれハ人の家　　雲水　流芝

きやうみ連のうきふ梅うえ武　　イヨ　芙柏

きやうにて咲にて志ら武梅枝　　三田　雲岐

副評

一穂園

秀　大元ら時にも花のこゝろか　　伊尺

神　梅の影よかゝるまゝ奥や雲の岸　　義湖

四ゝうの形水あり秋の出ゝ弘　　蓁〻

夏の内ゝ夫ゝ松の夏ゝ武　　花才

加茂川の上ゝ筋ゝふゝ天の川　　梅月

引伸ゝやゝうかゝ雲ゝ茂ゝ生　　松風

花咲ゝ来ゝうゝゝき弘ゝ　　雲岳

清内ゝ松ゝけ解ふ梅ゝ　　茂雄

菜物ゝ梅ゝ言入ゝゝうゝ言ゝ武　　ル嶺

俳句付象ゝてゝ也を第の雛　雨声
八郎平弥馬引出を一緒き　嘉兎
間ゝにかうるゝてゝ楊の毛　半桂
降ゝぬ日雨のまゝあり拂ひ花　暮雨
結ゝ海平二ゝ多ゝ之ゝむ雪ゝと水　ほし
爲ゝふ人ゝ本鶯ゝ平ゝ冬の山　素堂
鶯ゝ鶯ゝをふせゝる鶯ゝ鶯ゝ　井和
東雲平鶯ゝ鶯ゝの水　作ハ不平　選石
春雨平海も叩ゝ一日降　去来
山を越ゝ雲ゝ平ゝ　瓔居

英鶯のゝ平日ゝ寺小松山　一松
一ツ咲蓮ゝ川小春ゝ　仝
遠ゝゝ雲ゝ山の高ゝ初雪　芳去
ゝゝ照を叩ゝ西風　呂國
笠ゝ多ゝ加ゝ平ゝ　百歩
稲ゝの間ゝ見ゝ平ゝ　花秀
雁ゝ山ゝ小ゝ山ゝ家ゝ　珈郷
鶯の住ゝ平ゝ山の所　義剛
ゝ向ふに白帆の見ゝ拾ゝ　巣山
巣ゝ平ゝ撰ゝ平ゝ　玉英

鶯の毛乃抜かうるうる秋の風　作西川　寿山

追加

菜咲うるの雲とかゝる樵歌うる　文雪

文吉

伝授中うるふ磯と書く水　コト逸閑

一さうしまうこ沙先の初りるか　丶惟草

咲止うる涼色る秋年比市　丶元外

風の雲よとうる中　沖浪　芸安　其岱

芸うる中川流のうる耳うく　出雲　連斎

紫陽中秋うる秋咲哉　美紀　乎春

雪窓菴

秀　晴月

雅　花亭

傾てあるもの雲に秋すうる

流るれすうる　四雅の うる雅

秋色中うれうる　拾うる降つく　石別　京渓

拾うるう大房うる　秋尾　茶系　其一

拾うるて思うるうるうる　夫汀

雅色拾の雲うる　蔡し

うる風の雲うる中　雲乃咲　紫　絵西京　寿梅

竹うるせうる　秋の雲　洗志

秋のうるうる涼うる月の梅　雄雄

[illegible]　　呂國
[illegible]　　陵石
[illegible]　　半搖
[illegible]　　蓁〻
[illegible]　　呉雀
[illegible]　　耕夾
[illegible]　　探晴
[illegible]　　雨紅
[illegible]　　玉山
[illegible]　　蕊丘

空アキ欄

[illegible]　　玉水
[illegible]　　夾汀
[illegible]　　井児
[illegible]　　東岳
[illegible]　　八角坊
[illegible]　　吾山
[illegible]　　其柳
[illegible]　　青山
[illegible]　　夾蕊
[illegible]　　里潭

空アキ欄

空アキ欄

撫西条

夕靄年月の似く彩霞成　芦庵

近加

折まさかくさかりの春うゝ　雪窓

文さる

罪ふかの毋樹を花の木の間小　國義

人為年生ふ向ふ未ふ樹花を　殘菱

當社まふ向ふ年下り仮　五葉

春ふ年二日加ふ上　月樵

苗代の坊年教ふ花の紅　孤白

活路の間ふ新ふく霞馬成　霞象

秀

抽

副評　時習齋

遠方に水の新ふ雪ふ蛍ふ孔　月池

四月九三日ふ秋年り樹の尊　京稽

鶯鶯の来ふ弟成ふく新り新　洗志

消ふふふ野ふ樹の中和ふ樹　楚狂

樹仮年ふ秋の大国ふ去ふ新　石腸

年ふ殘ふ老ふふふ時ふふ　洗志

山仮の来ふ事練ふ新ふ蛍樹　都文

鶯ふ第ふ番年ふ春ふ花ふ　石猿

島ふ花ふつふふふ来の間年風之　伐充

[illegible]れし林の時雨 秋岸 雲モリ 一誠
[illegible]の菜乃和歌の月 肥平子 里莊
夜の秋も雲より出る淺茅哉 二柾
時雨降る時雨の秋の末の間 花碎
以[illegible]れぬ清水哉 吳雀
[illegible]樵哉 二柾
[illegible]奥の[illegible]哉 旭芳
[illegible]の中[illegible] 半桂
寺を形[illegible]社家[illegible]松陰 瓢哉
[illegible]人を[illegible]長義 萬賀

陸降[illegible]舞[illegible]暗[illegible] 松吹
[illegible]二人中秋[illegible] 青苔
四紀[illegible]中[illegible]とな[illegible]華 南窓
石[illegible]人[illegible] 湖声
和人[illegible]中[illegible]書の[illegible] 大[illegible]甫 秋江
[illegible]あ[illegible]菊[illegible] 蓁く
[illegible]馬中[illegible]道 侘び
[illegible]植う邨 播[illegible] 笠村
五[illegible]あ[illegible] 蓁八
代[illegible]蓮[illegible] 一石

回文

井[illegible]植う邨 播[illegible] 笠村
五[illegible]あ[illegible] 蓁八
代[illegible]蓮[illegible] 一石

[illegible]

亟加　紀友

我[illegible]水[illegible]秋の雪　拾古

文言

満干せぬ海部[illegible]秋の舟　三カロ　卓池

山[illegible]の[illegible]伸[illegible]ふ[illegible]、　水軒

苔[illegible]撫[illegible]十[illegible]、　蓬宇

[illegible]中　[illegible]、　桑岡

[illegible]、　海堂

[illegible]伸[illegible]、　吳雪

秀

[illegible]

副評

[illegible]の[illegible]　紀[illegible]　春汀

[illegible]秋中[illegible]の[illegible]　二柾

[illegible]　王呂

常[illegible]松の[illegible]　北陽

松山の[illegible]　長泰　子章

水[illegible]中[illegible]　作西川　百丈

[illegible]邪知の坊

[illegible]　[illegible]　茅至

[illegible]　[illegible]　其雪

松[illegible]山[illegible]水　良　百丈

照る月にあはれし菊の花　紫西条　壽泉

澄わたる夜中の星や秋の風　宏月

鶺鴒の尾に日のさして初時雨　素稽

初冬の野分さへ稗の霜　郎堂

松明揺れば一度にさむき村時雨　青山

戸明れば霜こぼれつく落葉哉　甲嶺

菊咲くや三日月あかむ虫の声　白馬

降水やしばし澄つる萩の花　布瀬

子を連れて寒さ凌げり雪の下　伍尺

麻刈りし跡のさびしき蓮の花　青山

嵐引く笠もつくして稲の月　素稽

名も知らぬ雨に打るゝ稲の花　其盟

松茸を採りに行かれぬ小春かな　呂國

一天に雲ひとつなし秋の色　世求

田と山の境に立つや秋の暮　肥　其雪

飛ぶ鳥の日を隠しけり世の中　雲岱

帰る日や暮れぬ内の月　兼八

遠の音に雲の中なる山見ゆる　甲嶺

村中に鳴れば陽炎の霧哉　一雄

雲晴れて稲の穂なみに浪かへる　直丸

[illegible]川一條西[illegible]の枝　　斜春

延加

雁帰[illegible]　　椿枝

文吉

[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

秋水

イセ　者吾

[illegible]　　[illegible]

東海

南泊

秀

雄

副詩

桐江園

[illegible]　山代村　　益夏

[illegible]　　雲邱

[illegible]　　笠村

[illegible]　　青蓉

[illegible]　　亜九

[illegible]　　月斜

[illegible]　　爲明

[illegible]　　一洞

[illegible]　　甲嶽

初蝉や日にうとまれて施し山　几董

新茶の信子部の北京にて　南崖

さみだれと村のこゝろし聞ん哉　一識

罠と雛子捨てしたゝや是の山　南崖

稲つまやいなびかりとふ成る人　梅山

みぞれとぶ枝に花なし萩の秋　千尋

白露の畑もうちや夫乃路　竹元

穴に埋め後の月かや開たる　李橋

人ひとり来て見えや数あるし　旭岩

外の村に新来しかし梅の月　化友

咲出てちるさき月やあはれの夜　梅士

梅さみの蕃も削らすまた　梅山

若草や咲尽し残る枝てる手　花醉

田一枝まさんでゆるぬ月北鷹　赤山

回文

井伝不野るも枯野の咲し田井　伯弥介　菜原

仏と咲りし蝶の梅に見て桐の花　酔懐

山鋒の若菜とする芽の頃まさる　南崖

雛子の外も咲かへまさむや朝の雲　李橋

春の霞や雲なへて新調　島洲

笑顔まやして焼ひの香に　東山書　草吸

[illegible] 北堂

追加

[illegible] 露島

文書

[illegible] 石栗

[illegible] 桐古

[illegible] 推草

[illegible] 金令

[illegible] 陸田

[illegible] 馬谷

秀軸

副評　虹雨亭

[illegible] 里鶴

[illegible] 青山

[illegible] 呂園

[illegible] 柳後

[illegible] 三旭

[illegible] 尺馬

[illegible] 草吸

[illegible] 井宇

[illegible] 文路

世作甲斐の国なんとやの葉の花　茶山
子の国なれ京解くと書る時時代　玄ヒロセ　蘭葉
振ふまるる弦楽つくれて音合佛　二柾
戦場くと絵とと絵巻をせるとうう　撥鞨
毛をつくと重ねの二人ある清水　陽和
産土寺郷の印ヤまの川の色　牧葉
人別と水絵も来るやちの池　二柾
撥屏もちくと生を書る葉の形　茶立
雪風のくとをもつ峯の松　布流
行のもとを振くと形をうかつく桶　柳亀

絵ねをくと自白を立てむ葉の色　拭豊
撥来色くと絵くくくと振むくを　一花
駕籠よまくと体をくくくと絵西条　一清
地をあくくくくくと指ヤ小六月　南嶽
書ヤくくくと帆振をくくと振形を数　其雪
降のくを絵す牧形ヤ去葉　ホ樹
せくくれくと織網をくくヤくくの西　洗志
月の絵よヤくくくくくんと絵をくくと　静渚
起くくくに茶湯をくくくる社日の色　自来
地をくくくくと絵のくくくと撥茶　牧葉

日よりうて高楼ひらくて手弥生身　　議鑄

追加

祝ひ日の祝寿てこそ　　玉呂

文言

仮橋や三ツ踏こまの水　　逸閑

みてこそ知る深て芭蕉の花　　淡富

松の下や踊る翁　　有節

一段高く祝雅楽の稚子　　丸起

舞ふ時て鶴仕体ある中　　一帰

和ふ時ある赤仕山の人　　一花

副評

文木亭

祝ふ東や雪のあれ岩代の間　　遊石

ちる花の清ふ水ぬる春雨　　鶴鳴

和ふ時煙吹ふ山　　洗志

舞の袖ふ花の中　　玉呂

鶴舞ふ山や神の日和ふ小六月　　東遊

笠高ふあれ山新や　　自来

秋ふ中ある塩や　　一花

高ふ花咲ふ殿宮の松　　梅童

吹ふ松の風ふ弥生身　　蓁く

呂園　松巖
夾暁　龍泉
二松　仝
鴨里　一青
篠賀　笠洲
花卉　文章
井昶　呂園
一花　瓢舟
一・九　二松
琴川　花洞

水仙の咲ける井の奥
湖の南の岸の柳の陰
きり門の中の人ぞ
雁のあるじ　石松作
唐崎の松の雪
秋の月
鶴の舞ひ人体
和歌の浦
化

涼しさや銘んさありて一森入　揚笑

追加

庭さきの田子夕日の錦る尾花哉　一可遊

文書

待たてもうらみる雨る小春哉　矢コ　萱秋

摂子や二節こふしきハの破り、　北窠

蓮華のしち橋よ笠　アハ　鹿丈

青龍の神子の花や江戸葉臺　アキ　雪頂

世満て夜々きれ　去サキ　沙臺

いつ掛し橋の崩れやみさを　タニハ　光浪

秀

軸

副評　松寿菴

白露や遠くえ花　寿礼

秋の野や有毛馬　春蘿

橋こえハまろ雲のある花哉　鷺江

翁とこ山の柳哉　自来

降あれ星の浜あれ哉　玉呂

野に橋の道の吹流　雛丞

菜花の咲る雨路哉　鴇鳴

小ゆるしの摘り哉　ゑ四斗甫　碌く

長茉や一ツの松　升一

鵆啼の無夜通しや秀の門　杉古
世の移り石よ飛ちり枝川原　其芳
夕影の下やうつりも聯く私　因幡 明鳥
よくよくおもへ去然飾や花の暮　二柳
一漏く漕まつてつく田植の節　寺田 千里
花ちりも書てしまうて朱硯　芳延
竹物とりて捨きる桐也桶　月人
碑ともなりてしきも昨と新涼　文路
五月雨や其ひ人ちきさるの水　後内子 其林
木艶の雲ありしやや縁の月　郁堂

あをしらぬ雲霧の木むや小山の月　佐伯 交竹
鹿ついしの露縁をうるみ月今宵　鶴鳴
聴つるちよ燃えあつ秋草の下紅　文路
蝿なともむしみの利く鳴子哉　玉呂
逗映るひとつ牙寒や入相　訥朗
手ならし静林むる深生ちる　鷺江
茶菓の去ふ葉しるや深しき　蓁舎
松の雪佛法僧や昔の暮　玉呂
水よりも咲しる暑哉　橋甫
夜さくや其日造りの古人紙　天馬

元日の今歌たてまつれる井戸　今陳大明

追加

雪ちらまくの窟たちかすみ初るかな　甚雪

文書

稲ちとせ和歌の浦のさまあるかな　ヤマト　鵬雲

遠ラ島の姫松の緑　イトミ　業令

夷の和と笑ふたちかすみ　石水

麦ふたちかすみ　祖仁

春ふかれ一ふくや鶯の　隙力

月のくもとなる山中　初鶯　十二八　自乗

副評

月上菴

秀　活も春ふたちかすみの輪の仕舞哉　石友

軸　春分下　梅の咲ちり川辺上　青芝

梅枝上かくく伸る根芹哉　清九

明くれの雪ちかすみ　一峯

霞れもむ春を立ちかすみ　扎納　可水

陰稲下　春ふたちかすみ　呂国

雪をちらせくまく與助中　添毫　壽仙

むくうくふたちかすみ　風月

鶯の笑ふ　帆ちくらまふる末の音　完蓋

鴎ゑの子を抱て出まちの花法堂　花井
七種乃節ゝも入りさはなる秋かな　玉呂
今まさく露や浦の中く若々　良朋
一声り浴衣も溜めしる小手かれ　千丈
錦乃雲塞ならんみる我乃節　青葉
日毎れ月さくえんと年附の鐘　呂圃
法降やすゝ寺まつむまかり炭　柳扈
水抱く丘は見ふし頃ひかり　徐雀
かしますれ枝ちすひぬ植女哉　風月
走りよう飛鳥たちまさ芦の子ゝ　二柾

日ましの陰子は留りけや冬の録　菜人
維あさ附代の宿やしら花染　二柾
ききふ惜くゑ又ありけ蛍乃帰　雲皈
水入くて人気しつまる角力かな　升免
菜園子一日居るや秋の蝶　升一
柿木の出まりせくゑ秋の籠　標江
露乃手ぬるるちる玄都る小笹葉（依西今）　北湧
まへしさにり守を拝まり松の下　笑々
堀ちるちる水わしく母居や花衣擢　益雄
扇ところは母のふるめ法山寺　滄浪

雨ふりまさる中　一枝の藤のうち　八角坊

延加

二班の竹川ふるゝ中　みちまさる　花調

文吉

ふり延る中おのゝ新ちるゝ　ヨト　的蓋

夕かたをうる中　西ゝ　ゝ　風外

黄鳥中　つゝうゝ　水化上ゝ　拙笠

鶯音中　伸ゝ　ゝ　相の苗ゝ　雅宗

結ふゝゝ　ふれさき時分　ムヤシ　考良表

我新の向ふよる中　ふるゝ　京　牡鶯

秀

油

副評　文欽居

黄ふる中　まゝ白ぬれ　の山　卧堂

鶯ふる中　供ぬの　夕涼ゝ　二柾

唯ふる川　流蓋ゝ　川景　義閑

ぬゝゝ　乾ゝ　中　花　花朴

ふゝ　ふる罠　ふ　ふ　芒　風月

涼中　に遠山　ふゝ　ふ　和雀

蓋ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雨　二柾

附白金中　上ぬ　ぬ　ぬ　絡　北湯

絶頂　ふる　絶　ぬ　表成

流引や西もひくしも淵ちる
あれ連ゝ寒へ下ちる色濃り色　肥メツラ　芳吉
湯ひら永もちくれや方の形　　胆く
久嘉のとや如つちれ和ふ義　　一染
松のうきゝ行の松中書の月　　風月
出れるよ月生ちくる暁船れ　　金刑
戸をくて寒後雪中萩の色　ヨ那中　　酔浪
出る月中河ちゝ合ふふとふ　　一松
新紅をくれちゝ鳴を問古る　　嘉遊
一日の行くも世ゝ永れふ　　巻モリ町　碧水
肥メツラ　龍馬

松の戸や積る雪れふ人ちゝ　　第山
立流ゝ寄合もちや枇杷の花　　玉呂
夕ひや月ちの色を吹ふく　　花洞
玄羅の寄那ちゝ擦ふ那　　二柾
おれゝ背の松稀ちゝ夫の水　　嘉吉
夏の井戸寒ひちゝ吸中石蔵の色　　琴牡
岩ちゝ中一ちゝ蔵ちゝ夫の寒　　義刑
ちつうゝと月出ちゝ夫れ乃山　作ツ示井　細水
東中松る揺ゝ子苗ふ　　完豊
新のゝ川あちくまちゝ蔵つゝ　　芦月

佐保姫の人を指す中、初秋の頃　石友

追加

其ゝ中佐保姫夕附月　淺水

文言

秋月中　梅ちるあり　芒穂出　フンコ　春星

桜月中　桜ちるあり　桜の花　サヌキ　琴舎

初ちるを月とする中　八月　寺蔵

夫婦かくあるべし　八月　絢月

第の子ぬ中ちるべし　京の花　蘿蔦

論ちるべし　大年

秀

独

副評

格人の嘆中あるべる和ひ字　作カツ山　青別

山門ちるべ　庭三

弱も舞べ　桜ちるか　春の雪　花朴

入梅時中　雪ちる書ち　秋声

月の部ちる　星祭示　卧堂

弱ちる秋菜　ちるべ　端午　自来

ちるべ　小雪ちる　初声

法華而中　月の雪ちる　春雪

牧中を約ちる　二征

水海を真中にして秋のころ　小枝

蚊やりたる木にかゝる茎の月　青芝

かろしと聞下さそひくる一葉かな　化友

朝顔や枝一輪のありし哉　瓢舟

跡つくもとうき紙すゝや白桜　二柾

虫の聲や樸たしかに家の中　青別

織られ行く川にまつ中や菜の山　益雄

枯葦や鳥雛の中より石乃入　大井

湛部さ月…なり菜の花の如く　完壺

人ならず猫も…田楼…　青芝

雨…や添…る蓮の花　招霍

流…や角…や青…　益雄

泥…や…　葉月

露…る枝の蒼…　茱山

ちんまりと鶴…葉…　玉呂

きく…綱掛のあ…　鹤鳴

秋…の菴…　波青

念佛乃…る木槿哉　台栗

門ざし…甘…や乙鳥　花洞

寺の花…ける　二柾

汐の引うらくふるまもくさうの部　玉呂

遠加

[illegible]　棠居

文吉

[illegible]のもとの文て雲のうつ　ハりマ國　九

[illegible]女よりたれ男うの部　イトミ　紫陽

[illegible]橋のたもとぬるとあと　テンホ　童威

水[illegible]　北鈴

[illegible]の[illegible]　月坡

[illegible]向の[illegible]　白雀

秀

抽

副評　聽雪菴

来くと奥よりたちのの白ひとと　伴一

面ぬくとあるの作ー　芭蕉の葉　湖声

[illegible]　望れた　友月

[illegible]　秋江

[illegible]　呉江

[illegible]　[illegible]

[illegible]の間乃[illegible]と在[illegible]　友月

白[illegible]一[illegible]　二松

降雨の[illegible]蓮れ葉　松年

草の露こほるゝ跡のあらし哉　呉江

稲山のさらくあかる師走かな　乾外

松明の灯の影吹かるゝ春　二松

鍋釜の音もかなしく夜半かな　寺丸

迎ひ来て来る宿取ぬ時雨哉　梅蘇

さし来る雨のやうなる柳哉　東児

折きつのせね雲もなき梅の月夜　伯東路　有志

又落る事もなき梅なりけり　佐富久　松二

枝尾花ちりあれる散かな　一識

菖蒲やおもり紐ら一輪　支月

紅葉をみすまして走しの雨　東児

崩るゝ風もよらん呼子鳥　秋江

時雨しく山の形のあらはれし　肥カラツ　有物

雨千里九十数の舞哉　鷺妹

新世そふる雨や蓮の露　作人

いつとても白あれと秋の道　石アノ　以文

川越してたまらし鷺哉　佐富久　蘇花

紅葉する門のうへの雪轄し　秋江

初月ニ添ひと作れ雲の那　翠翎

蒐絶せぬ子のこゝろかな縁　松花

樹と茂れる山ちかくすまし　杉古

追加

さゝ水の池に移る中　雲の峯　鳥白

文吉

絢なる整唱を又移す春の夜　梅玄

静もるる夏のさゝ波みなぎる　鈴子

華やかに庭さゝ咲する樹大哉　ノト　牛鳴

さんさんと雪降る夜の寒さ　アハ　頓呉

連々寒を知るめるふりの寒ひら年　汝府　鈴充

人の為に人の呼ぶや冬ごもり　ミカハ　蓼馬

秀

抽

副評　鰍斎

書初や武士侍ひ〻葉生氏　杉古

名もさゝめ陸奥〻〻蓼木主　鳥松

陰ゆゑに花ゆゑ秋の雪　南岳

時ゝ〻ゝ出の稿ひめ雪ゝ那　酔仮

義母ゝ〻や一枝ゝ〻禁中　南岳

政知日ゝ高ゝ高ゝ高ゝ月雪新　作西川　玉川

芝の中咲ゝ〻ゝ物れ寸蓼ゝ〻　牛人

稿の丈抜ゝ〻ゝ〻ゝ通ゝ〻　鈴雪

侍ゝ〻ゝ板ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　旭芳

はるばるとも兮福しし　十り帝　敷弁
鈴山の麓よ出ぬる泉　鶯歌
あして名を写ぬる踊子かな　藤風
名ぬる中清水吸ふ蝉　松露
滝ぬる響ぬる鳥や　和歌　石友
子のりし　野ぬる花のさく光景　大室
ぬるぬる清きる自中稲の穂　青山
降ぬる中住居の花　遠石
撞を神ぬい射ぬる中秋の雲　石友
ぬるぬる黄ぬる稲　桜紅　二松

ぬるぬる霧の晴ぬる中風流寺　湖声
雲ぬる雲ぬる雲の不ぬるぬる葉　二松
ぬる物を見ぬる白ぬる大矣義　仝
稲妻よぬるぬる中弁ぬし　洗志
印の宮中住居を鈴ぬる水ぬる　南岳
社ぬる中沙のぬる新弁玉　甚雪
木魚の新ぬる肥カラ　玉吉
山の井北中ぬる中ぬる　拗喉
和歌の中ぬる結ぬる弁の宮　春蕉
撞ぬる雲ぬる稲ぬる北市　遠石

[illegible]　　第月

逸加

[illegible]　　南有

文吉

[illegible]　　我竟　ヲハリ

[illegible]　　百丈　作西川

[illegible]　　紫金　イトミ

[illegible]　　春暉　登中ノ

[illegible]　　袁凡

[illegible]　　碎象

副詩

臨江亭

[illegible]　　孫雪

[illegible]　　洗志

[illegible]　　千里

[illegible]　　杉古

[illegible]　　仝

[illegible]　　湘崔　伯松キ

[illegible]　　杉古

[illegible]　　東翠

[illegible]　　仲星

遠生の篠をもちゐて
海人の釣の糸にかけたる
吉野の山の桜
菅根朝臣の花をもとめ
まことの花の色を
白雪の雪にまがへる
一ふしのうぐひす
和歌を
春の日の
岡のあをやぎ
雪のうちの梅

為松
猛吹
芳海
井流
其物
玉呂
有物
布山
井流
二松

元日
若菜
春の日
大和の国
掃こぼす
雪ひ人
里の花
水の舞
雪の下
伐こん
文はみほひの

井流
芳屋
和五条
杉岩
泉声
文甲
恥カラウ
玉呂
井星
作ヲ者
徳賀
其物
法志

[illegible]の時升秋　雲峰

延加

文類中[illegible]きの[illegible]の門　都升

文書

君[illegible]我[illegible]小松[illegible]　仙業

書[illegible]中[illegible]深の松　芳廉

咲[illegible]　源呼

[illegible]の[illegible]中の[illegible]の[illegible]　慎俄

義入中[illegible]の[illegible]　義雅

三恵

秀

油

副評

[illegible]中[illegible]　有春亭

[illegible]　秋中日市　升人

[illegible]　作カツ山　栃林

[illegible]　文亨

[illegible]中[illegible]　和高ト　冨別

[illegible]　北湖

[illegible]　作西川　百文

[illegible]中[illegible]　呂国

馬[illegible]　秋の雲　花林

[illegible]　知篤

野もの〳〵中　夕日　和

篠原中　人

萩の花中　北水

実ばく〳〵の稲ら〳〵中　玉江

あたる　煙の中　雲の月　石友

稲葉中　よく〳〵　舟　弁吹

色ちれる　弟の妻中　大川橋　書雨

いとまなく　稲の花　人中　星鶴

紅葉の抵抗　月　萩の中　鶴鴨

五七七の句の井戸中　萩の中　不角

接〳〵の男〳〵中　雲の峰　草吸

沼蓮ふ　あ〳〵の中　沼　二柳

山〳〵つ　蟬　中　沼の皮　細石

引て　〳〵　大　〳〵　あ　ふ　小松葉　弁吹

手稲の雲れ　上　雲　雲　自　完葉

相　〳〵ふ　ゆ　て　〳〵中　青篠　桔士

雲の切　命　ち　ん　中　笑　〳〵　山　東拙

白雲中　山　中　ゆ　れ　ち　ち　中　北羅

鶏　中　湾　雨　ち　〳〵　雲れ　雲　柳朗

岸　裏の稲　〳〵　ち　ち　陶古　白蓋

夜　所　ち　し　山　中　雪　崔船

[illegible]　　鶯囀

追加

[illegible]　　書譜

文言

[illegible]　　フンコ　春星

[illegible]　　高士　長峯

人[illegible]　　ヨチコ　奥野

[illegible]　　ヨワリ　且翁

[illegible]　　イナハ　東嶺

[illegible]　　仝　松花

副評

雪月亭

[illegible]　　龜逸

[illegible]　　亜成

[illegible]　　二柳

[illegible]　　藝舎

[illegible]　　豫西条　一清

[illegible]　　夾竹

[illegible]　　夾蕊

[illegible]　　仝

[illegible]　　益義

可水
拝山
以鶯
芳吉
拓彰
白栗
老松
石友
一青
南岳

拓忘
弁吹
聲山
風吹
四時
清荒
尚石
芳吉
弁人
南崖

追加

新石二の陸を重ねて四面八日　碎菓

文主

稲干や一面に敷く蓆の上　ハリマ　蓆源
海の方に低き所の松の葉　フヒコ　榛園
村雨やりの重く出る新の雫　花庵
夕秋の切株ならぶ橋本郷　旦蓉
　　蓼均
　　照く

蓼舎

発句

秀逸

剛評　秋夕亭

ちらちらと雨降ってこの夜の月の雨　唐雨
相撲取りの一人ぬれて雨れ塚　春蓬
松の葉の雨に濡れて蛍の上　維石
さらさらと松の葉の雨に濡れ　家例
名を惜しみ名を惜しみ仏の堂　甲嶽
鶏の鳴く秋の夜の月松の雨　春渡
星の雨松の葉の雨　雲ロセ　秀鶴
満月の雨の雨の雨の雨　鳥閑
夜の雨の雨の雨の雨の雨　清嶽

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　二松
[illegible]　　草吸
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　北畑
[illegible]　　有物
[illegible]　　白江
[illegible]　　[illegible]水
月の景　[illegible]川原　　[illegible]
[illegible]山

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　二松
[illegible]　　盛光
[illegible]　　北潟
[illegible]　　二松
[illegible]　　青芝
[illegible]　　南屋
[illegible]　　不角
[illegible]　　細仁

追加

文吉

原川　馬仙　雪竹　雪竹　桂生

雪の中に咲く蕗の花の香の高き

雪の中に咲く蕗の花の香の高き

十二月中　天の川　月桂

石橋の年号徳平　西　無年

畑中の高ひくきに咲く蕗の花

副詩

松箱亭

旭芳　里鶴　洗志　仲児　呂國　白松　洗志　龜拙　八角坊

乃木の墓に置く菊の花の香

勝八幡　蕗の花　山中の人生の高きに咲く蕗の花

加賀　能登　秀　油

和歌山　隆之　西口

阿弥陀　冨士

雲の中の高き松の中

引佐郡　通り　肥呼子

幸之　歩行　秋

川蓑の節にて帝に和歌
蓑主
義雪の中遠く渡る人と聞
二松
新月や小さく高き雲の毎 重モリ
六絃
一あるじ来と雲の中山 橋
龍雄
都この後も中一雲の 漂渡 後今宗
春人
古塚の秋の川水尾さ山無
北湧
医師中と云られて実は医師
鳥石
紅の所の義は後の毎月丈
東山
吉井にりのさしてまる法和
旭芳
拾ひ向を聞二ツ合
桂月

山高く紅葉の月
青良
見渡す鹽の川の月
亜九
麦の穂を偽き毎一湧き
舞天
出てあれて町をつくる月和
南岳
新しく通る中竹の
渡志
色のとろめ枝うぐ沮の桂
月岑
一本は星もかくて芝蓬の
乗之
我蓬の向を紅葉山の義
白松
外にもんやうの後の味
二松
乃をさして毎中附
北湧

自然墓前に降る雪の四月山　伊兒

追加

まさしく雪果てて降る有り所　雪

文書

新墓の中にまつむ花　仙台　一止

海辺にて年長かりし山桜を　ヨト　伯遠

月の入りまでいまだ初花全　杜有

四方の水に降るく降る雪の有全　志乙

春を降る雪の春の色全　京都

降る雪に花くれなゐの春の色全　玉光

池

剛評　為泉菴

山越ぬ雲より降る雪の春　五柳

有りつつ名残の雪を惜しみ　雪弦

義経に降る雪に春の雪　逸九

春の雪の雪の雪の降る雪に春の雪　芳春

末の遠き海の白雪の降る雪の春　玉昌

雪の花の波の白雪の降る雪の春　真翠

雪の中の世の雪の降る雪の春　真芳

夫風や一つの山の世の雪の降る　細郷

春の雪の降る雪の春の雪の降る雪　芳春

菊のよの手にくらへて二十三才　笑々

置出し草の葉をとふく彼岸かな　迪丸

非常を踏とこしらう雪の人　二松

しくれや松にかゝと菖子を揚る　残舞

高き屋にさける小石や冬の川　其翠

又よそのする所の跡の渓の里　二松

ちりしく露の降りて垣の際　枝丸

暮て行く闇より咲くれ梅かな　卜一

雁啼や深きに流るゝ小川岸　南崖

ちりしく紅葉あたら流れ哉　除　青山

鴨啼や寒く寒中の月の時　共山

白菊や咲き育ちしてかな　灌茄

一二朝明けし紅花哉　静嶋

天晴と取りその梢を　東桜

雁啼や遠き渓とある石口　幕舎

雪の夜を出かへられてことし　若雀

松葉の遠く生るる松露哉　米人

新鳥を謡そりの何ぞ　老　聲江

名月や満てゝ押出る気　路浪

穿くつき雪ぞ帰る　東翠

[illegible]　里雪

追加

橋の樹は[illegible]の雪　蔡柳

文言

[illegible]川[illegible]　雲山

乙鳥の[illegible]　松花

去の月[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

投[illegible]　紙中　香雨

汐先の[illegible]　ヒセン　[illegible]山

軸

剔詩　東嶺

[illegible]　孟呂

毋の[illegible]　義碩

[illegible]　青山

[illegible]　邪豊

[illegible]　楊堂

[illegible]　里泉

[illegible]川中[illegible]　二柳

[illegible]　李風

[illegible]　青別

一際
徐来
花鳥
青山
呂國
井児
甚一
重威
細々
悪り色

急月
一白
不角
半柱
遠石
北雪
花実
響江
第山
二松

[illegible]　　[illegible]

夢ありなん千さと霧中菓の門　　月樵

文書

[illegible]　　イタヽ　曲阜

[illegible]　　船山

若月中[illegible]　　テンホ　[illegible]

[illegible]　　呂國

[illegible]　　松蹄

[illegible]　　墨山

副詩

[illegible]　　静夜菴

[illegible]　　文弼

[illegible]　　友月

[illegible]　　百歌

[illegible]　　子韶

[illegible]　　孝性

[illegible]　　花洞

[illegible]　　五柳

[illegible]　　南崖

[illegible]　　一東

蓬の生ひ辺の池ふくりの表　矢々
長とも云へり　ま物川の一ところ　淀志
おりたちてとうあるなる世界　南岳
指ひて　翠羽
指ひてとてとて所のるふ　ふ里
指てもよりれて乃ふ　五柴
ひてとれて乃ふ　陰の新
岩うれよ清めもうて平の　益長
あ清てあよ指指てあ佛の　伯イツミ　菱山
ちあて平今毎てる渡世　尺山
ひてあの平華天のあての　南岳

葉葉の上に平葉てとの表　南岳
江のまてを押あて浦てあて　淀志
松浦のあてあてのあの生　月下
身の教をたてとるの浦表　仝
ものくく力もてあてあし　吾山
おてとの毒てを水世て指　風月
てて清てあり志天の表解　嘯月
ふの上に花の新あく蓮て　章樵
表てあ夏のあを指てう　義孝
表和て清て陸る茅の稿　真汎

白魚よりの[illegible]なかな十　青山

追加

宝家の[illegible]や　暁の星　米恵

文寿

涌る小口の白き清水かな　本庄ハ八 坂雅

謝さる寺部の日ろうし啼蟬　言陸 鼎峯

笑ぬつゆさえしかし朝の月　人町

[illegible]し落る売郎　兵コ 董秋

涼み出る[illegible]にある枯葉かな　善作 鷗浪

秋色をめくる手に接むる月は今　出雲 亮[illegible]

香柚

副評　白也苑

松に生る江戸振向て月すし　二松

春の夜や船も[illegible]小松原　[illegible] 子云

雨[illegible]しも葉の[illegible]かな　南岳

西行もきて人の[illegible]　東翠

人通る[illegible]月　天山

[illegible]道の[illegible]　孤堂

[illegible]川[illegible]　白梓 若雲

[illegible]　旭芳

降る[illegible]の声[illegible]　月渓

[illegible]　肥カラツ　傳

湖色

石友

二松

柳條

松雪

素陶

松翠

[illegible]　を文社　号先

号閑

急月

遠尤

曙山

藍玉

無尤

[illegible]

之二

南窓

幸雄

[illegible]の山をこえて[illegible]

追加　[illegible]

[illegible]おもしろ[illegible]　竹里

文言

川せゝ[illegible]己う[illegible]ゝ[illegible]　玉吕

[illegible]ゝ[illegible]　白栗

月[illegible]ぬ[illegible]　湖色

木[illegible]　玄隠

[illegible]　[illegible]

[illegible]伊ヨ[illegible]舟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

友人鬼園乃主或日訪来て
いまだ八千里の後大洋集遠
里五里ならず跋文ならまほしと我
答曰余いまだ俳文を能せず見去
を書給乃人なれかを頼見来
この礼なく白也見て曰予去て老病

乃大淮集ゑ跋あるまた小鷄鶏乃
調を聴んやさらひ無尽乃
中こゆるさた見ようておもふ
氏集を始め深おもひ撰へる新
ゑ乃さたまものし翁乃意忘ゑ集
遠新社友の吟乃十三篇をの集

乃内の抜萃なる遠おに文を飾り
乃玉に及ぶ乃八手師乃述ら遠
し事沖屏風芸文献あるよあの
し跋ゑ撰へ八芳の段乃撰採的白ゑ
をををのあと正詞曰。天保癸卯。
初冬十二日。正風宗師芭蕉翁。一

百五十回是辰。先是。募社中諸子。
集句追薦之句。僅二年而集者。
至十二萬句。余窃撰之。拔萃。
得佳吟一千餘唫。書以糊屏
風一隻。納諸湖南義仲寺之
祠堂。後生淡叟逢書。とあり

故ありしかども見もせず
捷徑なるをたゝ知るあれを
かつて責をなさんを塞くるを
弘化二季乙巳蒲月

木仙菴其山誌

八千房藏

八千房

浪華書林

大阪心斎橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
同　塩屋忠兵衛
同　弥七
日本橋通二丁目　同町
同　博勞町　伊丹屋善兵衛
同　江戸堀犬丹橋南詰　野田屋元三郎